

学校法人相愛学園

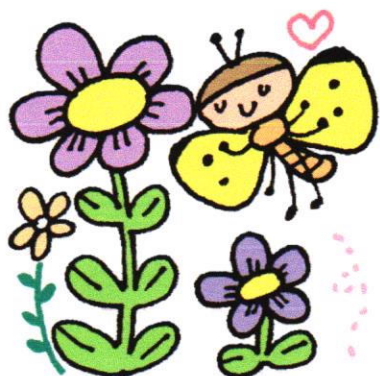
理事長 相 田 芳 久 殿

令和5年度

# 学 校 評 価 総 括 報 告

報告者 焼津豊田幼稚園

園長 佐野正子



理事長  
決 済



## 令和5年度 学校法人相愛学園焼津豊田幼稚園 学校評価の総括

園長 佐野正子

本年は、学校評価に関する事業を進めるにあたり、以下のような経過で作業を進めてまいりました。

1. 各学期における教育活動、学級・学年運営の振り返り(1～3学期)
2. 時期に応じた父母アンケートの読み取り、くみ上げ(1～3学期)
3. 職員各自による自己点検・評価の実施(R6.2.月上旬)
4. 保護者アンケートの実施(R6.2月上旬)
5. 各自己評価ならびに父母アンケートの結果を踏まえた施設管理者の自己点検・評価 (R6.2.20 理事長の確認決済)
6. 学校関係者評価委員会の実施(R6.2.27)
7. 学校関係者評価委員会からの報告(R6.3.12)
8. 学校評価の総括を理事長に提出

自己点検・評価の内容については2月26日に報告したとおりですが、その後に実施された学校関係者評価委員会からもプラス評価とともに、いくつかの改善点も指摘されました。来期への改善課題については以下のとおりです。

1. 一人一人の成長の詳細を追い、幼児個々へのより一層の配慮を求めていくと共に年間の保育活動を精査しながら、幼児の立場で細心の注意をはらって保育活動を進めていく
2. 保育の質の向上、教員として的人格統治等に向けて自己研鑽に努める。
3. 教職員が互いに教え合い学び合う時間を大切に、明るく元気でまとまりのあるチーム作りを目指す。

これらの事項については、令和6年度の課題として真摯に捉え、十分な対応を検討していきたいと考えます。

なお、安全管理、防災・防犯への対処については一定の評価をいただきましたが、大切な園児の命をお預かりする施設として、引き続きさらに万全を期して取り組んでまいりたいと思います。

以上、令和5年度の本園学校評価の総括として報告いたします。

# 令和5年度の教育活動等に対する学校評価書

令和6年3月15日

学校法人相愛学園 焼津豊田幼稚園長 佐野 正子



〃 学校関係者評価委員長 久保山なぎさ



- 1 幼稚園の教育理念** 建学の精神 『 あかるく こころゆたかに 』
- 教育目標
- 1 じょうぶなからだに
  - 2 いのちをたいせつに (思いやりのある子に)
  - 3 やる気のある子に
  - 4 よく考える子に

**2 本年度の重点目標**

- 『主体的な子どもの姿を目指して』という研修テーマに沿って、様々な活動や遊び・生活の中から、主体的な子どもの姿を見つけ育てていく。
- ECEQ研修を通して、園の良さを伸ばしたり、課題を解決するための方策を見つけていく。
- 学び合う時間を大切にしていくなかで、対話的な話し合いを重ね保育の質の向上を図っていく。

**3 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果**

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評点	幼稚園としての視点	評点	意見・評価
教育活動や園行事の実施にあたり、内容や実施方法が子どもにとって充実したものとなっているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナが5類となったこともあり、保育行事計画や保護者参加についても以前に近い形で実施できた。いろいろな経験を積み重ねることで子ども達が自信を持てるよう適切に関わる努力をすると共に、その都度省察を行い次に繋がるように改善を心掛けた。</li> <li>・ 8月よりコーディネーターの先生方のサポートを受けながら、ECEQ研修を重ねてきた。“園や子ども達の良さ” “大切にしていきたいこと” “課題の修正” 等、時間をかけ多くのかを話し合い学ぶことができた。次年度には研修効果が表れるよう努</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価委員会当日、全クラスの保育の様子を参観させていただきましたが、フレンドリーな子ども達が多く元気良く挨拶をしてくれました。どの保育室も温かい雰囲気ので飾られ、その中で子ども達が幼稚園生活を楽しんでいる様子を感じました。また、先生方の声かけや見守る姿勢が子ども達の思いを大切にしている様子を感じ取ることができました。発達年齢に合わせての指導援助を心掛け、軸がしっかりしているからこそ年代ごと健やかに成長している姿が見られるのだと考えます。</li> </ul>

		力していきたい。		
子ども一人一人の内面を育むよう適切な指導援助が考えられているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導・援助が必要な子どもについては引き続き個別指導計画を立案しサポートをしていった。いろいろな表れを持つ子どもの割合が少しずつ増えてきている為、園と保護者が同じ方向を依向していけるよう配慮した。</li> <li>・教職員の輪（和）の中で一人一人を育てていけるよう協力体制を整えていった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境が様々な現代社会の中で育つ子ども達なので、いろいろな表れがあり対応が難しいこともあるかもしれませんが。先生方が協力体制を整え、しっかりとした考えを持ち指導援助が行われているように感じました。</li> <li>また日々の積み重ねの経験から“聞く”“待つ”“折り合いをつける”というような多方面での育ちを感じました。今後も子どもに寄り添った保育を展開できることを望みます。</li> </ul>
園内の施設設備環境等幼児が安心して生活できる施設設備環境となっているだろうか。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭遊具等、日常的な目視や点検、職員による月1回の定期点検等行いながら、安全管理に努めている。遊具の点検管理の他、事故を未然に防げるような子ども達への安全に対する意識を育てていきたい。</li> <li>・ヒヤリハットの記録を提出してもらい、取り纏め報告する取り組みを始めた。しかし伝達はできたが、怪我の起こりやすいやすい場所等のまとめや地図化できなかった。次年度は保護者にも伝えていけるよう考えていきたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内においてはセキュリティ、安全指導・管理、遊具点検等を通して、子ども達の安全な生活を保障するものとなっていることは評価できます。</li> <li>・昨年までの裏門フェンスの多すぎる掲示物も精査され幼稚園らしい雰囲気の裏門となっています。</li> <li>保育室の装飾などは温かい雰囲気の良いのですが物が多く雑然としているクラスもありました。子ども達が一日過ごす保育室内の環境も互いに見直すことも必要かと感じました。</li> </ul>

○自己評価、学校関係者評価を経て、令和6年度への課題として以下の点を挙げました。

1. 『主体的は子どもの姿を目指して』を心にとめ、様々な活動や遊び・生活の中から主体的な子どもの姿を見つけ育てていく。
2. ECEQ研修を通して確認し合った課題を一つ一つ解決していく過程で、互いを尊重し合い自己発揮することでチーム力を高めていく。

以上